

平成 27 年 4 月 10 日

# 南 の 風 1 1 9

南部ミニバスケットボール連盟  
会 長 藤原 敬一

WJBLの第3戦を観ての感想を書きます。

皆さんご承知のように、JX-Eneosは、個の能力が抜きんできている選手が多いのが特徴です。サイズで見ると、渡嘉敷選手は192cm、間宮、宮澤選手は180cm以上とスターターのサイズが抜けています。そして、司令塔の吉田選手は、サイズこそありませんが身体能力、運動能力は抜群のものがあります。また、パス、ドリブル、ディフェンス時のスチールからリバウンドまで、すべてのプレイに超一流のスキルを備えたプレイヤーです。そして岡本選手は3Pシューターとバランスも整っています。

さらに言えば、長身の3選手は、ペリメターからやや長い距離のシュートも決める力を持っています。相手チームから見ると、抑え所のポイントを絞ることが難しい、とてもやっかいなチームであります。

一方の富士通は、今年たいへんブレイクしたチームです。篠崎選手≪26年度WJBLのルーキーオブザイヤー（若葉台ミニバス出身）≫の加入がとても大きかったと思います。2番ポジションとして、シュート、ドリブルカットイン、ディフェンダーとして年間通して活躍しました。次に町田選手は、トップガードとしてチームを牽引しました。3Pからドリブルカットイン、ディフェンスからのパスカット、スチールと能力を如何なく発揮しました。長岡選手は、3Pを打てる4番として活躍しました。身体能力の高さ、そして何よりの持ち味は身体の強さです。ポストでのフィジカルプレイが抜群に強いのが特徴です。3番の山本選手は、3Pからペリメターのジャンプシュート、ドライブからのカットインと多彩な攻めを持っています。5番の篠原選手は、ポストでのシュートセレクトが上手なプレイヤーです。今年はディフェンスにも粘り強さを増し、成長の跡が見られました。

さて、JXの7連覇はすばらしい結果だと思います。異論はありません。

しかし逆に言うと、7連覇を許してしまったリーグの他のチームは、今後どうすればよいでしょう。世界に当てはめて見た場合、JXが欧米のチーム、他のチームが日本と考えることができます。サイズがあり、身体能力の高いチームと戦う場合、何をどうすればよいのでしょうか。

もちろん、WJBLというトップリーグで戦っているチームの関係者は、打倒JXに燃え、対策は十分考えていると思います。今年度（2015～2016）の他チームの戦い方が楽しみです。

富士通がファイナル第3戦で見せた、ディフェンスに一つのヒントがあるような気がします。ヘルプやカバーディフェンスを繰り返して、渡嘉敷、間宮選手のインサイドを抑えます。インサイドからのリロケーションパスは、ローテーションしたプレイヤーがチェックに行きます。外の3Pを簡単に打たせないようにします。また相手のトップガードには、プレッシャーを掛け続けます。兎に角JXと戦う時には、入れあいにしないことです。また、ディフェンスの足を止めないことも大事です。次に富士通のオフェンスですが、第3戦は、パッシングのモーションオフェンスから、外のシュートとドライブを組み合わせました。パスとカットで崩し、ドライブを織り交ぜるといったオフェンスは効果がありました。JXのディフェンスに的を絞らせていませんでした。

このような富士通のタクティクスは、他チームの指標になったのではないのでしょうか。